# 安定と信頼の市政を　59年度

## 3月定例市議会

# 行政の簡素化へ庁内組織

## し尿処理場　新年度中に用地決定

**五十九年度の当初予算や行財政運営の方向づけを審議する三月定例市議会は三月十二日開会、二十九日までの十八日間の日程で開かれました。小笠原市長は新年度を迎えるにあたり、各議案の提案理由の説明に先だち、今後の市政運営の方針について述べ、この中で「安定と信頼の市政を運営し、市民の期待にこたえるために市政の刷新を図る」など、現在の厳しい難局に対応するための決意を表明しました。**

新年度の施政方針を述べる小笠原市長

### 施政方針（要旨）

#### 行財政

行政の簡素化、効率化を進めるため新年度に庁内組織を設け、機構や業務の見直し、適正な人員配置に積極的に取り組みます。

財政は地方交付税の二年連続の落ち込み、市税の大幅な増収が期待できないことや人件費、公債費などの増大により厳しい状態です。

新年度一般会計予算は百四億二千九百八十四万円（昨年同比五・八九％の伸び）ですが、事務費、市単独事業を極力抑えたものとなっています。このため、新年度予算では開発公社への支払いは未計上となっており、今後努力する考えです。財政危機の非常事態をよく認識し、効率的な財政運営を図りながら、財政の再建と市民福祉の充実のために全力を投入します。

#### 産業

市勢の発展には力強い経済力の培養が必要です。空港、四国横断自動車道などの輸送網を主軸に、立地条件に適した先端産業や有望な中小企業の誘致を図ります。

これからの農業は、農産物の価値を高める工夫が必要で、加工産業について検討を加え、温暖な自然条件に適した作物の開発、生産技術や生産性の向上など、研究機関、農協と連携を密にし、農業の振興を図ります。

#### 同和

市民の同和問題に対する認識と協力を得るため、今後も人権思想の普及と高揚に努め、差別のない明るい都市づくりを進めます。

五十七年度から行っている小集落整備事業は、時限立法であるため期限内の完了を目指して努力していますが、住民の一層の理解と協力をお願いします。

#### 教育・文化

児童・生徒がよい環境の下に教育が受けられるよう、その整備を図ることが行政の重要な責務と認識しており、苦しい財政事情ではありますが、教育施設の整備を重点施策として行っていきます。

また、「家庭の日」の定着を図り、文化・芸術の都市づくりにも努力します。

#### 福祉

市民の健康を守るために、病気に対する予防知識の普及に努めるとともに、各種検診の徹底を図るなどの施策を進めます。

また、身体障害者をはじめ社会的、経済的に弱い立場にある人々のために、できる限りきめ細かい配慮をするとともに、適正な生活保護の確立に努めます。

#### 空港・運輸

これからの課題は、ジェット化のメリットを実質的に本市発展にどのように波及させるかであり、園芸その他地場産品などの空輸拡大、地の利を生かした企業誘致などを進めます。

民家防音工事は、当初計画分は完了し、現在、県が四季を通じての騒音調査を行っていますので、その結果に基づいて対象地域の拡大などを強く要望していきます。

#### し尿処理

し尿処理場建設は、直接市民生活にかかわる問題であり、また、文化都市を目指す本市にとって重要な課題です。最も困難な用地問題を新年度中に決定し、早期着工を目指して努力します。



# 南部排水対策委を設置

## 総合計画は60年度から実行

**三月定例市議会での一般質問は、十六日と二十一日から二十三日までの四日にわたって行われ、十七人の議員が市長の政治姿勢、財政、教育などの問題について、執行部の答弁のあらましは、次のとおり。**

▼五十九年度には大きな機構改革はできないが①適正な人事②市長の特命事項を担当する参事制度の導入③行政の簡素化を図るための専門委員会の設置、などを検討しており、新しい行政の方針を打ち出したい。

▼総合計画は五十九年度中に三カ年の短期計画をまとめ、六十年度から実行に移したい。長期計画は三年ごとの九年間とし、作業を進めている。

▼開発公社への支払いは五十七年度まで平均二億円を達成して来たが、五十八年度は二億円に達せず深く反省している。新年度予算へは未計上だが、ゼロということはないように努力したい。今後の財政再建計画については、財政再建審議会にも相談したい。

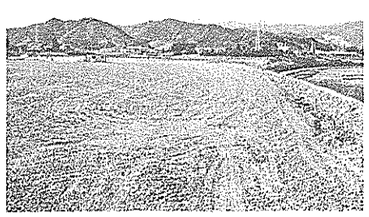
▼五十八、五十九年度の財政悪化の原因は、国の大型プロジェクト事業が自白押しで、多くの経費を要すること、公債費の本格的な償還期を迎えたことなどが上げられる。今後は、経常経費の節減に努め、総合計画の短期計画を作成しているので、この中へ開発公社への支払いなど財政再建計画を明確にしたい。

▼学校に対するジェット機騒音の影響は香長中、大篠小、大湊小、目章小、後免野田小に出ている。このうち香長中、大篠小は防音工事が完了しているが、香長中では機種によって聞こえないことがあり、大篠小は教室内ではさほど影響はないようだ。ただ、体育館や屋外の授業には中断する場合もあっている。いずれの学校も、これから窓を開ける夏場には、かなりの影響が出そうで心配している。

▼大篠小のマンモス校化に伴う問題は、現在九百二十七人（二十六学級）で、五十九年度には九百六十人、六十年度には約千人になる見込みだ。小学校の規模は十二―十八学級（六百―八百人）が適正規模だと言われており、今後、出生率、転入などの推移を見守りながら（新設校が必要かどうか）検討していく。

▼大篠小の体育館の必要性は十分わかっているが、他校の木造校舎の改築があるので少しがまんしてもらいたい。新年度に予算のやりくりがつけば、設計だけでもしてみたい。

▼岡豊小は、県営蒲原団地が完成すれば約百十人の生徒増加が見込まれ、校舎の増改築、給食棟の改築がせまられると思うので検討を始める。



**貸貸借が決まり業者に貸すことになった比江の市有地**

▼大篠保育所は過密状態の中でしんぼうしてもらっているが、建設までの間、とりあえず用地を埋め立て、園の運動場として利用できるようにしたい。

▼新設の県立岡豊高校（十二学級、五百四十人）へは市内から百三十人が進学するようだ。市民が望んだ念願の普通高校なので、市立校のつもりで育てていきたい。

▼歴史民俗資料館は岡豊山が最も適地であり、早期建築に期待している。県は他に用地を求める考えはなく五十九、六十年度に建築、六十一年度にオープンする計画を変えていないようだ。また、近く周辺整備のための地元へのアンケート調査も行われると聞いている。

▼阿佐線第三セクター加入問題は、赤字経営は目に見えているが、他市町村の熱意に対して「反対表明」はできない。社会的意義について県がどのように考えているか、知事にも会って、本市の最終的な態度を決めたい。

▼南部海岸地帯の排水対策については、早い機会に「対策委員会」を発足させ、技術的な問題などの検討を始める。

▼使用済み乾電池の処理については、今のところ分別収集の徹底、強化を図る以外になく、新年度は衛生委員会とも協議しながら、販売店に対して回収の協力を要請したい。処分の方法はコンクリート詰めにして埋め立てる方法がある。

▼比江山の市有地をこのほど、大三海運株式会社（スバル車の輸送元請け会社で、四国四県の中継基地となる）と賃貸借契約を結んだが、金額は月額百二十万円で土地の金利分をいただく契約となっている。契約は一年だが、その後の契約、賃借料の改訂、土地の売却などのことは未定だ。

▼医大周辺の都市計画は、現時点では五〇％以上の市街化区域の編入は不可能で、当面はモデル的に五％規模の都市計画を進めたい。現在、関係する地権者と協議をしている。

▼広域農道（三六・五％の進ちょく率）は高速道路、黒潮ライン、空港につながる経済効果の高い道路なので、財政の許す限り早期完成に向けて努力していく。

▼玄関や各階にポスターの掲示板が多く、庁舎の第一印象が悪いことは前々から思っている。庁舎管理の面からも、もう少し清潔な庁舎に努める。

▼県住宅供給公社が所有している国道五十五号北側の土地（明見）は、現在工事の残土処理場として埋め立てが始まっており、整地が完成すれば運動場として利用させてもらうように手続きを取りたい。